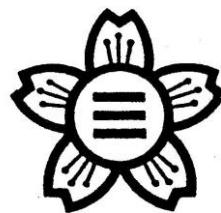


令和 7 年度  
運営に関する計画



令和 7 年 4 月

大阪市立三軒家西小学校

(様式 1 )

大阪市立三軒家西小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

これまでの取り組みの成果からの現状と課題は以下のとおりである。

**【安全・安心な教育の推進】**

- ・児童や教職員向けの SNS の危険性の啓蒙的な出前授業は継続していくことと、スマホなどでのトラブルは、学校では対応するのが困難な場面があることを、保護者とともに考える場をつくっていく。
- ・子どもたちの自己肯定感を高める取り組みは、児童朝会などをはじめ機会を多く作ることができるようにになってきた。今後は、児童理解報告会や「いいとこみつけ」の活用を通して、子どものいいところを教職員間で共有し、子どもの頑張りを認める機会をより多くつくっていくようとする。

**【未来を切り拓く学力・体力の向上】**

- ・話し合う活動の中で、どの子も主体的に発言できる場の設定や雰囲気づくりが必要である。また、話し合いの中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることを学びの中心にしていく。
- ・授業の中で、子どもが自分から進んで課題解決に取り組めるよう手立てを取ってきたが、基礎基本の定着が十分でなかったり、否定的な回答をした子どもが高学年では 17%いたりと、十分であるとは言えない。算数科では具体物を活用したり、国語科では子どもが考えてみたくなるような学習課題を設定したりと、今後も継続して手立ての工夫をしていく必要がある。
- ・校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである」の項目について、肯定的でない回答の割合を減らしていきたい。特に高学年に多いので、体育委員会だけでなく高学年の児童が活躍できる内容を考えたい。例えば、低学年の子に教えてあげられる環境づくりや、縦割り班で活動を行うなどが考えられる。

**【学びを支える教育環境の充実】**

- ・積極的な ICT 機器の活用を進めていくとともに、より効果的な活用が図れるよう、実践事例をあげた研修を行う。「心の天気」については、まだまだ入力する習慣が身についていない児童も多い。児童がついつい入力したくなる（手間なく入力できる）ような手立てを講じていく。
- ・年次有給休暇（夏季特別休暇を除く）については、休業中に取得したものも含まれており、今後は、稼業日中にも安心して取得していけるよう取り組んでいく。
- ・国語科だけでなく、他教科についても並行読書を上手に活用し、子どもたちが本に親しめるようにしていく。公共図書館の借り受けの年間計画一覧表を作成し、読書活動を充実させていく。

## 中期目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90% 以上にする。
- ・令和 7 年度の本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100% にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査の国語において思考・判断・表現に関する項目の平均正答率が市内平均を上回るようにする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 60% 以上にする。
- ・令和 7 年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80% 以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・令和 7 年度の授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60 % 以上にする。
- ・令和 7 年度の教員の時間外勤務時間で、1 か月の時間外が 45 時間を超える教員を 0 にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 90%以上にする。
- ・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100%にする。

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を 60%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 80%以上にする。

### 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。
- ・教員の時間外勤務時間で、基準 1 以下を満たす教員を 85%以上にする。

## 3 本年度の自己評価結果の総括

## (様式2)

## 大阪市立三軒家西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した  | B：目標どおりに達成した           |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</b></p> <p>・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>・本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。</p> | C    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p><b>取組内容①【1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>自分を大切にする心や他者への思いやりを育むために、「いじめについて考える日」を年2回設定するとともに、各種出前授業も全学年で行う。</p>         | C    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「自分がされていやなことは人にしないことを守っている」の設問に対して、最も肯定的な回答をする児童の割合を75%以上にする。</p>                      |      |
| <p><b>取組内容②【1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>スマホやタブレット、SNSの危険性を理解し、安全に正しく利用するために、分かりやすく専門的な出前授業を全学年で1回行う。</p>              | A    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>                        |      |
| <p><b>取組内容③【1、安全・安心な教育環境の実現】</b></p> <p>場に応じたあいさつの大きさを理解し、できるようにするために、児童会のあいさつ運動を年2回設定するとともに、各学年あいさつや礼儀に関する授業を行う。</p> | C    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「自分から進んで気持ちのよいあいさつができている。」の設問に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>                          |      |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |
|---|
| ① 指標において、1～3年生は、84.5%とクリアしているが、4～6年生では、61.2%にとどまり、目標をクリアできていない。「自信をもって人にはいやなことはしていない」と言い切れない児童が一定数いることがわかる。 |
| ② 指標はクリアしているが、実際の行動面では正しい使い方を十分に理解できていない児童もみられる。学校での指導だけではなく、家庭での関わりや支援も重要であり、学校と家庭が連携して取り組む必要がある。          |
| ③ あいさつに関する指標はクリアできていない。児童会によるあいさつ週間だけでは十分とは言えず、日常生活の中であいさつが人との関係づくりの基本であることを意識づける必要がある。                     |

### 後期への改善点

- ① やさしさや思いやりのある行動を取った児童には、具体的に認める言葉がけを行い、自己肯定感の向上を図る。
- ② ICT 機器や生活面での「正しい使い方」について、学校と家庭が共通理解をもって指導できるよう、情報共有や啓発を継続して行う。児童が自らの行動を判断できるようにするための学習機会も設ける。
- ③ あいさつ活動を児童会中心の取組にとどめず、学級・学年・教職員全体で協力して推進する。日常生活の中で自然にあいさつが交わされるような雰囲気づくりを行い、あいさつの意義を実感できる場面を意識的に設けていく。

## (様式2)

## 大阪市立三軒家西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|                       |                          |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した  | B : 目標どおりに達成した           |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を60%以上にする。</li> <li>・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）や、スポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を80%以上にする。</li> </ul> | A    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標   | 進捗状況 |
|--|------|
| <p><b>取組内容①【4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>1年から3年までは、タブレットを活用したドリル学習に毎日10分程度取り組む。4年から6年までは月に2回の朝学習や漢字検定に向けての学習、デジタルドリルを使った自主学習など、個に応じた学習方法に積極的に取り組むことで基礎学力を定着させ、自分の考えをもつことにつながるようにする。</p>                  | A    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「授業などで自分の考えを文に書き表すことができる」の設問に肯定的に回答する児童の割合を45%以上にする。</p>  |      |
| <p><b>取組内容②【4、誰一人取り残さない学力の向上】</b></p> <p>昨年度に引き続き「意見をつなぐ学び合い」をテーマに研究を進めていく。年度始めと終わりに研究授業をすることで児童の変容がわかるようにするなど、年間を通して研究テーマを意識した授業づくりに取り組むことができるようになる。また、観点をしぼり、その観点に沿った授業づくりを進めることで系統立てた指導ができるようになる。</p> | B    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問に肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。</p>  |      |
| <p><b>取組内容③【5、健やかな体の育成】</b></p> <p>年間を通して、児童が意欲的に取り組むことができるようしていく。児童が積極的に体を動かしたいと思うような取り組みを考え、学期ごとにスポーツウィークを設定する。</p>  | A    |
| <p><b>指標</b></p> <p>学校アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p>   |      |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析  |
|--|
| <p>① 前期学校アンケートにおける「授業などで自分の考えを文に書き表すことができる」の設問に肯定的に回答した児童の割合は94.3%であり、指標を大きく上回った。タブレットを活用したドリル学習への毎日の取り組みや、基礎的な問題へのくり返し学習により、基</p> |

礎学力の定着を意識した指導ができている。また、協働学習支援ツールの研修会を開き、教師自身がタブレットを幅広く活用できるよう努めている。それを児童一人ひとりに応じた学習につなげていくことが今後の課題である。さらに、自分の考えをもつことはできているものの、書き表すことに苦手意識をもつ児童も多いため、「書く力」を伸ばす指導が求められる。

- ② 前期学校アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の設問に肯定的に回答した児童の割合は93%であり、指標を上回った。研究テーマである「意見をつなぐ学び合い」を意識した授業づくりの成果と考えられる。ペア学習やグループ学習、協働学習支援ツールの活用などにより、話し合いが苦手な児童も自分の考えを伝えられるようになってきた。しかし、一部の学年では指標を達成できていないことや、児童の振り返りを見ると「深める・広げる」まで到達していないこと、話し合いの焦点がずれてしまう場面があることが課題である。
- ③ 学校アンケートにおける「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きである」の設問に肯定的に回答した児童の割合は92.6%となり、目標の90%を上回った。体育委員を中心とし、2学期・3学期にスポーツウィークを予定している。体育の授業では、運動が苦手な児童も自分に合った課題に取り組めるよう、個別最適な学びを意識した授業づくりを行っている。

#### 後期への改善点

- ① 児童が自分の考えを文章で表現する力を高めるため、日常的に「書く活動」を取り入れ、表現する楽しさや達成感を味わえるよう工夫する。また、教員間での実践共有を進め、タブレット活用と「書く力」を伸ばす指導を効果的に結びつけていく。
- ② 話し合い活動において、児童が相手の意見を受け止め、自分の考えを深めたり広げたりできるよう、教師の発問や話合いの場の工夫に努める。協働学習支援ツールを活用しながら、学年ごとに課題に応じて焦点がずれてしまわない話し合いの具体的な指導方法を検討する。
- ③ 今後も体育の授業やスポーツウィークを通して、運動の楽しさを共有しながら、体力の向上とともに「得意・不得意にかかわらず挑戦する姿勢」を育てる。また、児童一人ひとりが達成感を味わえるよう、個別に応じた目標を設定し、実践していく。

## (様式2)

## 大阪市立三軒家西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した  | B：目標どおりに達成した           |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標   | 達成状況 |
|--|------|
| <p><b>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。</li> <li>教員の時間外勤務時間で、基準1以下を満たす教員を85%以上にする。</li> </ul> | B    |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標  | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>学びのポータルやスカイメニュー、グーグルクラスルームなど、活用方法の研修を行い、学期に一回、各学年で学習端末による学習を行う。</p>                    |      |
| <p><b>指標</b></p> <p>授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業の50%以上にする。</p>   | A    |
| <p>取組内容②【7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>一人一人が自分の勤務時間を自覚するとともに、残っている教職員がいれば、学年、担当に関わらず、声をかけ、できるものであれば仕事を分担するなど、全員で勤務時間を意識するようとする。</p> | C    |
| <p><b>指標</b></p> <p>教員の時間外勤務時間で、基準1以下を満たす教員を85%以上にする。</p>   |      |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析   |
|---|
| <p>① 各種研修を通して、タブレットやアプリ、ソフトの使用方法・活用方法を学ぶ機会が例年より増加した。その成果として、「心の天気」以外の場面でも、どの学年でも学習者用端末を活用した授業が実施できている。今後は、端末を使用することにより効果的な学びにつながる授業の実践や、具体的な活用方法を学ぶ研修を計画していく必要がある。</p> <p>② 勤務の自己評価において「基準1以下を満たす教員」は71.43%であり、指標を達成できていない。各チーム内では声かけが行われているものの、チームを超えた声かけや協力は十分とは言えない。また、日常業務の中で他チームとの関わりをもつことが難しく、業務量にも個人差がある現状が見られる。業務の偏りを是正し、公平な分担を図るための仕組みづくりが求められる。</p> |
| 後期への改善点   |

|   |
|---|
| <p>① 学習者用端末の活用をさらに深めるため、授業の目的や内容に応じた効果的な使用方法を共有・検討する研修を実施する。また、教員間で実践事例を伝え合い、児童の主体的な学びに生かす授業づくりを進める。</p> <p>② チームを横断した協力体制を構築するため、校務分掌の複数担当制や業務の割り振りの見直しを行い、業務量の偏りを改善していく。加えて、校内委員会や低中高リーダー会を活用し、コミュニケーションを促し、組織全体で支え合えるようにする</p> |
|---|

